

【ホテル飛天】

現在、相馬市で公認されている温泉は3つあるそうです。蒲庭温泉、松川浦温泉、そうま温泉天寶の湯の3つです。その松川浦温泉のあるところがホテル飛天だ。

地下1200メートルから汲み上げる弱アルカリ性の単純泉で、健康増進、疲労回復に効果があるそうです。日帰り入浴ができますよ。

何ととっても、天皇・皇后両陛下がご宿泊した宿だ。一度は泊まってみたいものですね。



(ホテル飛天)

【和田漁港のヒカリモ】

松川浦が西に広がる奥の方に、小さな港がある。和田漁港だ。和田漁港については、相馬市内に住んでいる人々でも知らない人も多いようだ。

和田観光いちご園から北東に進むとやがて和田港に着く。今はプレジャーボートや遊漁船などが停泊している。その和田漁港の一角に「ヒカリモ」の発生地がある。

ヒカリモは直径5マイクロメートル(5/1000mm)の微細な淡水生の単細胞生物で、冬は休眠して、4月ころから浮遊しはじめ水面が黄金色に輝く膜ができますよ。



(和田漁港)

日本で初めてヒカリモが発見されたのは昭和3年(1928)、千葉県富津市竹岡。ヒカリモは洞窟などの水たまりで見られることが多い(ため池などにもある)、相馬市内には8か所確認されています。その内の4か所が松川浦にあります。(福島県全体では14か所)
ヒカリモは年中光っているものもあるそうですが、相馬地方では黄金色に光るのは12月ころまでといわれているようです。



(和田のヒカリモ)

【和田の塩釜神社と玄蕃大明神】

和田の氏神は塩釜神社だそうです。塩釜大明神とも言われ、相馬地方に製塩技術を伝えた玄蕃さんが行徳から背負ってきた御神体を、元和2年に玄蕃さんが勧請(本社の分霊を祀ること)したとされています。



(和田の塩釜神社)

玄蕃さんが和田村に来たとき、年は60余才で、絹服の上下を着て腰には大小の刀を差していたため、皆が恐れて宿を貸す人がいなかったが、鈴木惣右衛門兼久さんは宿を貸したそうです。

玄蕃さんは寛永14年(1637)、和田村で80余才の生涯を終え、川添森に埋葬されたそうです。

埋葬地に祠を建て玄蕃明神として祀ったと伝えられているようですが、今はこの祠なく、塩釜神社に合祀されているようです。この祠とは別に玄蕃さんの墓碑が建っています。墓碑には正面に「下総行徳住人玄蕃墓」とあり、側面には「寛永14年3月11日没」、「大正7年1月10日有志者建立」と刻まれています。



(玄蕃の墓碑)